

## 4年国語科 『走れ』

### 1 目標

- ・登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解できる。(知識・技能)
- ・登場の行動や気持ちの変化について、情景描写などの叙述を基に捉え、読み取っている。(思考・判断・表現)
- ・登場人物の気持ちの変化について具体的に想像したり考えたりしたことを、自分の言葉で伝えようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

### 2 子どもの実態

本学年の子どもたちは、話し合いに積極的に参加することができたり、ノートに自分の考えをページいっぱいを書いたりすることができる。3年生で行った『サーカスのライオン』の単元では、男の子とじんざの叙述から、登場人物の気持ちの変化に気を付けて読む学習を行った。4年生で行った『こわれた千の楽器』の単元では、壊れた楽器たちの心情を考えるために、場面の様子や登場人物の気持ちが伝わる叙述を意識したり、表現をするために音読の仕方を工夫したりするなど意欲的に学習に取り組んだ。

一方で、授業中の発言の様子を見ると、話したい気持ちはあるものの、言いたいことがまとまらず話しているうちに長くなり、伝えたいことが漠然としてくるという姿が見られた。また、登場人物の気持ちの変化は理解できていたが、そのきっかけとなる会話文や叙述を基に登場人物の心情を考えたり、読み取ったりすることが難しい子どもの姿も見られた。このことから、自分の考えを明確にし、そのことを中心にして簡潔に伝える力を身に付けることが必要であると考えた。そこで、情景描写などの叙述を基にして登場人物の心情を想像して読んだり、友達のことを伝え聞き合ったりすることで、自分の考えを磨きながら、互いに学び合う力を付けていきたい。

### 3 単元観

本単元では、物語の中で起こる中心人物の気持ちの変化とその理由を想像しながら読む力をつけることを主なねらいとしている。また中心人物であるのぶよの気持ちがなぜ変化したのかを考え、自分が考えたことについて、どの叙述を基にそう考えたのかということを明確にして伝えることを目標にする。読み取ったり考えたりしたことを友達に分かりやすく伝えたり、さらに友達の考えを聞いて自分の考えをさらに深めたりすることができるように、考えを伝え聞き合う活動を設定していく。

導入の段階では、『走れ』の感想を中心人物の行動や気持ちの変化に着目しながら不思議に思ったことを書き、その後、話し合いの場を設定していく。

展開の段階では、走ることが苦手な運動会に後ろ向きだったのぶよの気持ちが、山場の場面で大きく変化する瞬間を考えるために、山場までののぶよの気持ちを中心に他の登場人物の背負っているものを読み進めながら、各学習課題に沿って話し合う。その中で、学習のふり返り【まなふり】を書き、授業の前後で自分の考えや表現力がどのくらい深まったかを意識することができるようにする。また、これまでの話し合いをふり返る場【ふりふり】を設定し、山場までののぶよの気持ちの変化を丁寧に確認する。その結果、叙述に表れているのぶよの複雑な気持ちに気付いたり、友達の考えから新しい見方を得たりして、深く読めるようにする。

終末の段階では、物語の最後の叙述や、これまでの【まなふり】を基に物語の続きを【ひろふり】として書き、単元全体を通してのぶよの気持ちの変化が捉えられているか確認したい。

#### 4 単元計画

時間	学習活動	意図・工夫
1 2	物語の感想を話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> <li>各場面の挿絵を掲示する。</li> <li>のぶよの気持ちの変化が分かる叙述に焦点を当てて考えるようにする。</li> </ul> <b>【まなふり】</b> 物語の中で不思議に思ったことや、みんなで話し合いたいことを書こう。
3 4	心の中がぐしょぐしょだったのぶよについて考えよう <ul style="list-style-type: none"> <li>運動会が嫌いなだけだと考えたけれど、話し合いの中で、けんじを慰めることなど、いろんなことが重なって、心が濡れているようなのだと気付いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>のぶよの人物像をふり返り、第一場面ののぶよの心情について考える。</li> <li>叙述を基に、のぶよは嫌なことや大変なことが重なって、心が沈んでいることを読み取ることができるようにする。</li> </ul> <b>【まなふり】</b> どうしてのぶよの心の中がぐしょぐしょだったのか、話し合いを通してわかったことを書こう。
5 6	だまってわりばしを見せたのぶよについて考えよう (本時) <ul style="list-style-type: none"> <li>最初は、けんじを怒らせないようにしていると思ったけれど、友達の見解から、あえて声に出さずに、お母ちゃんの気持ちを直接伝えているのだと気付いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>のぶよの人物像をふり返り、第二場面ののぶよの心情について考える。</li> <li>叙述を基に、のぶよがお母ちゃんの気持ちを理解し、けんじにお母ちゃんの気持ちを伝えるために、あえて言葉にしなかったことを考える。</li> </ul> <b>【まなふり】</b> どうしてのぶよはだまってわりばしを見せたのか、話し合いを通してわかったことを書こう。
7	これまでの学びをふり返ろう <b>【ふりふり】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの場面ごとの話し合いをふり返ることで、のぶよの気持ちの変化を丁寧に確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでのふり返りを見返し、自分がこれまでどのように考えを変化させたり、新しい見方・考え方を身に付けられたりしたかを気付くことができるようにする。</li> <li>次時の学習課題の読みとして、山場でののぶよの大きな気持ちの変化を考えられるようにする。</li> </ul>
8 9	体からみついたいろんな思いがするするとほどけていったのぶよについて考えよう <ul style="list-style-type: none"> <li>のぶよは自分も頑張れるのだと自信がついたと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>のぶよの人物像をふり返り、第三、四場面ののぶよの心情について考える。</li> <li>体に絡みついた思いが、一気に無くなるのではなく、二人の応援によって徐々に消えていったことに気付くことができるようにする。</li> </ul> <b>【まなふり】</b> 気持ちが大きく変化したのぶよについて、授業前と比べて考えが深まったことを書こう。
10	家に帰った後の、のぶよについて考えよう <ul style="list-style-type: none"> <li>運動会が始まる前は「ゆううつだな」とのぶよは思っていたけれど、今年はお母ちゃん</li> </ul>	<b>【ひろふり】</b> ・これまでの学習や叙述を基に、ふり返りながら、登場人物の気持ちや行動を書く

	とけんじに背中を押してもらって走り切れたから、今までで一番良い日になったと思っている。	ことができるようにする。
--	---	--------------

## 5 本時の目標（6／10）

- ・「話すこと」「聞くこと」を通して、子どもたちの言語感覚を磨き、語彙力を高めることができる。  
(知識・技能)
- ・これまでに学習したことを基に、登場人物の行動や気持ち、起こった出来事について、叙述を基に捉え、読み取っている。  
(思考・判断・表現)
- ・進んで中心人物の変化を捉え、考えたことを伝えようとするすることができる。  
(主体的に学習に取り組む態度)

## 6 本時の構想【まなふり】

まず、導入で前時をふり返り、運動会に後ろ向きで心がぐしょぐしょだったのぶよの気持ちを整理する。のぶよの気持ちを確認できたところで、本時の学習課題を確認する。前半は、去年と同じような状況になっているのぶよの気持ちがわかる場面を取り上げて、話し合いを行うことで、けんじとお母ちゃんのそれぞれの気持ちを理解して、板挟みに苦しむのぶよの複雑な気持ちを読み深めたい。その際に、必要に応じてわりばしに書かれた文字を見つけたときの様子や、拾って握りしめたときののぶよの心情を考えた動作化を取り入れる。言葉だけでなく動作化を行うことで、子どもたちはより一層のぶよがお母ちゃんの気持ちを必死にけんじに伝えようとする気持ちを想像することができるだろう。そして、落ちたわりばしに書いてあるお母ちゃんのごちごちした文字を見たのぶよの気持ちをおさえたところで、「だまってわりばしを見せたのぶよ」に視点を移していく。話し合いの途中で、のぶよがだまってわりばしを見せた理由について、けんじの態度に言えなかったのか、あえて言わなかったのかについて焦点を当てて話し合いを進めたい。子どもたちは両方の立場から、叙述やわりばしを拾った場面を基に考えを深めていくだろう。話し合いを通して、お母ちゃんの気持ちをけんじに伝えるために、あえてだまってわりばしを見せたのぶよの心情を読み深めたところで、最後に本時のふり返りを行う。【まなふり】として、のぶよがだまってわりばしを見せたときの気持ちについて、話し合いを通して分かったことや最初と比べて深まったことを自分の言葉で表現してほしいと願う。

## 7 準備

センテンスカード、挿絵

## 8 指導過程

時間	学習活動	留意点など
0	○前時の授業をふり返る。 ・けんじを慰めることと、びり間違いなしの自分の短距離走のことで心の中がぐしょぐしょになっている。 ○学習課題を確認する。	・のぶよの気持ちをしっかりと表現している子どものふり返りを把握しておく。 ・学習課題の確認で、のぶよの視点で考えることをおさえておく。
	だまってわりばしを見せたのぶよについて考えよう。	

<p>10</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けんじを追いかけて慰めに行くべきか、お母ちゃんの側にいるべきか悩む。</li> <li>・今年も去年と同じ状況だ。嫌な予感がする。</li> <li>・ごつごつしたお母ちゃんの文字を見て、お母ちゃんはおぶよたちのために頑張っているのだと気付く。</li> <li>・落ちたわりばしを宝物のようにぎゅっとに握りしめていた。</li> <li>・けんじにお母ちゃんの気持ちを伝えなきゃ。</li> <li>・怒っているけんじを見て、声が出なかった。</li> <li>・お母ちゃんの気持ちが直接伝わるように、あえて言葉に出さなかった。</li> <li>・お母ちゃんが思っている言葉をのぶよが言葉にするよりも、見せるだけの方がお母ちゃんの気持ちが伝わる。</li> <li>・お母ちゃんのごちごちした温かい文字を見せた方がいい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・去年の運動会で起こった、思い出したくない出来事を想起して、のぶよの心情に焦点を当てて話を進めていく。</li> <li>・わりばしに書いてある、お母ちゃんの文字を見て、のぶよはお母ちゃんの苦労や頑張りに気付いたことを確認する。</li> <li>・必要に応じて、動作化を取り入れ、のぶよの心情について視覚的に考えることができるようにする</li> <li>・だまってわりばしを見せたとき、「言えなかった」と「言わなかった」の両方の立場を取り上げて焦点かすることで、話し合いを深めていく。</li> <li>・のぶよはけんじに声を掛けることができなかったのではなく、あえて言葉にしなかったことを子どもたちの言葉でおさえる。また、あえて言葉にしなかった理由について話し合いを通して深めていく。</li> </ul>
<p>35</p>	<p>○本時の授業をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業をする前は、(けんじが怒るかもしれないから) 自然と声が出せなかったと思っていたけど、のぶよはお母ちゃんの気持ちをけんじに伝えるために、あえて黙って渡したことが分かった。</li> <li>・お母ちゃんのごちごちした温かい文字をのぶよが見て、お母ちゃんの思いに気付くことができたから、けんじにも言葉で伝えるのではなくて、お母ちゃんの文字を見せることで伝えなかったのだと考えが変わった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを通して、新たに分かったことや、自分の考えが最初と比べてどのように深まったのか、【まなふり】</li> <li>・机間指導を行い、めあてに沿って考えが深まった数人を指名し、クラス全体に伝える。</li> </ul>

## 9 板書計画

